

2023（令和5）年度 第2回 高大連携フォーラム 開催報告

「生成 AI 時代の教育を考える」をテーマに以下のとおり開催した。

日 時：2024（令和6）年2月29日（木）18：00～19：30

会 場：オンライン（ZOOM）

申込者数：63名

参加者数：39名

会員大学	9大学14名
会員大学外	4大学4名
高等学校	13校14名
自治体関係者	2名
民間企業	3名
その他	2名
合計	39名

プログラム：

18:00	開会挨拶 秋田 成司氏（大阪公立大学 副学長 / 高大連携部会推進委員会 委員長）
18:05	講演 林 宏樹氏（雲雀丘学園中学校・高等学校 教諭）
19:25	質疑応答
19:55	閉会挨拶 秋田 成司氏

<コーディネーター>小山田 耕二氏（大阪成蹊大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科 学科長）

演 題：高大接続を見据えた高等学校におけるデータサイエンス教育実践

概 要：「総合的な探究の時間」の授業を効率的に展開するための工夫や動画コンテンツが紹介され、生徒が制作した統計ポスターを参考に、実践されている探究活動の PPDAC サイクルについて具体的な指導法の説明があった。高大接続においては、高校側の役割はデータサイエンスのスキル習得ではなく、マインドセットだと考え、当たり前的事柄から問題発見、課題設定、要因分析へと問題解決策に繋がるフローを体得できるようになることが大切だとのお話があった。

主な質疑応答：

Q1:生徒が問いを立てる際、どの程度まで支援をされているか？

A1:事例を焦点化するために、5W1H に当てはめて生徒とコミュニケーションする。生徒がデータを入手できるよう具体化作業まで支援している。

Q2:「データサイエンス」に興味関心を持ってない生徒にはどのような対応が必要か。

A2:部活や趣味など生徒の身近にある事柄でもデータ化できることを示し、関心を惹起するよう対話を重ねている。

アンケート:別紙のとおり

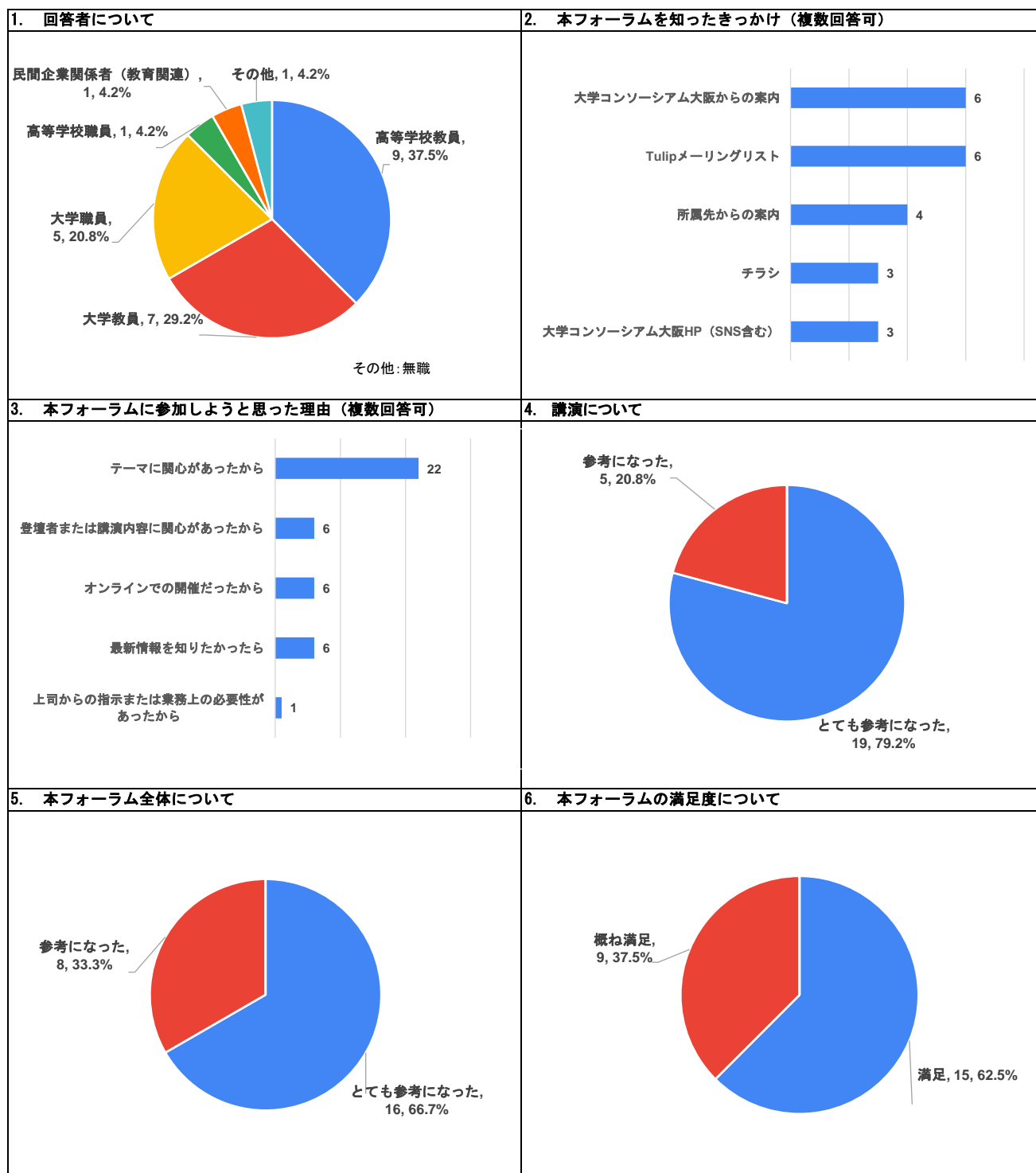
以上



フォーラムの様子

◆2023年度 第2回 高大連携フォーラム 参加者アンケート結果◆

参加者39名 回答件数24件 回答率61.5%



7. 6.にて回答した理由

<満足とした理由>

- ・非常に参考になったから。
- ・探究について比較的新しい取り組みとして非常に参考になりました。大学と高校の役割分担に関するお話については高大ともにより協働できていければ良いと思います。
- ・高校のデータサイエンスの現状を知ることができたため。
- ・高等学校での実例が学べたため、大学でどのような教育を行うべきか、高大接続の点から考えることができました。
- ・高校の実践が大変分かりやすく説明されており、本校でも活用できそうであったから。
- ・雲雀丘高校での取り組みについて知ることができた。
- ・データサイエンス教育の実践事例が具体的にとても分かりやすく理解が深まりました。ご講演後の高大の先生方のセッションに聴き入り満足と回答しました。
- ・林先生が実践している高校でのデータサイエンス教育の様々な事例を知ることができたため。
- ・高校教育の現場からの貴重な実践報告だったから。
- ・分かりやすかったから。

<概ね満足とした理由>

- ・高校でのデータサイエンスを活用した授業の実情を知ることができた。
- ・データサイエンスは難しいというイメージがあったが少し払拭されたため。
- ・特に、実践事例が、勉強になりました。
- ・先進的な高校での実践内容を知ることができた。
- ・情報Ⅰの取り扱いに関わることであったため。
- ・高校現場での取り組みについて参考となった

8. 講演に関する意見や感想

- ・実践的なデータサイエンスの授業、大変参考になりました。
- ・スライドをいただきたいです。
- ・参考サイトを教えていただき早速視聴したいと思いました。
- ・素晴らしい実践と、分かりやすい講演有難うございました。
- ・建設業や農業、運輸業などブルーカラー職種の中でもデジタルやロボットなどの技術が浸透し、デジタル技術を「使いこなす人材」を「非ホワイトカラー職」ということを昨日、初めて知りました。いよいよ、ここまで変化がきている。私は、仕事でもChatGPTを多用していると、面白くて仕方がない。高校生にも、この気持ちをとすると、「情報Ⅱ」の分野になってしまう。共通テストのために「情報Ⅰ」をするというのが、もったいなくて仕方ない気持ちでいっぱいです。林先生のされているような授業ならば、楽しんで学べる。教員ではないですが、教えるとなるとどうかなと不安に思いましたが、STEAMライブラリーを使えば確かにできる。今日の話は手とり足取り教えていただきました。
- ・林先生のご発表を聞いていると、私が担当している大学4年生の卒業研究と同じようなことをされているので、今後大学で教えることがなくなっていくのではないかと思う。
- ・「あたりまえをデータ化する」のお言葉が印象に残っています。学生募集広報の業務を担っておりますが、とても参考になりました。
- ・林先生が高校で取り組まれているデータサイエンス教育の様々な事例を知ることができ、非常に有意義でした。生徒さんのやる気スイッチを押すための声かけがあれば知りたく存じます。
- ・分かりやすい報告をありがとうございました。
- ・事例研究から入るのはわかるが、そこからどう理論化・体系化していくかが知りたいです。
- ・資料の配布があればもっと良かった。
- ・来年度、統計データをグラフ化する活動をもう少し増やそうと思いました。地理情報を使った階層化。

9. フォーラム全体に関する意見や感想

- ・このようなフォーラムを今後も継続してほしい。
- ・大変有意義なフォーラムです。また参加したいと思います。
- ・講演者が1人だったので、ゆっくり聞くことができました。
- ・林先生もおっしゃっていましたが、高校だけではなく、大学でのデータサイエンス教育の取り組み事例を共有できたらと思いました。STEAMライブラリーは存じ上げなかったのですが、偶然ですが今年度は、1) 気温とアイスクリーム・シャーベット(およびヨーグルト、チョコレート)の家計消費支出から相関分析・回帰分析、2) 牛肉・豚肉・鶏肉の家計消費支出のデータからヒートマップ作成の演習を出題しました(高校ではなく、大学の「データサイエンス入門」の演習課題ですが)。
- ・また参加してみたいです。
- ・「数学の教員がいちばんデータサイエンスから遠いところにいる」が耳に残ります。数理・データサイエンスと括るのが乱暴だったのでしょうか。

10. 次回のフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ・社会福祉学部を志望する生徒の探究学習
- ・当たり前が当たり前ではない、ということに気が付くのは難しいと思いますが、そういった高校と大学の差異に気が付けるような、ワークショップなどが良いのではないかと思います。
- ・検定などの分析方法
- ・大学のAI教育実践事例を知りたいです。
- ・高校でのデータサイエンス教育を受けて、大学での入門レベルのデータサイエンス教育で演習課題等をどのように設定すべきか。
- ・いろいろな他校の実践報告など。
- ・高校教育の現場からの実践報告を続けていただきたい